令和5年度 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より"環境整備"に取組む	✓
昨年度から引き続き"環境整備"に取組む	

活動団体名: 一般社団法人ゴジョる

活動地域 : 岩手県釜石市

活動テーマ:



地域資源と福祉の連携による 持続可能な課題解決プラットフォーム構築

- 団体:一般社団法人ゴジョる
- ・「地域の課題を連携・協働で解決を促す」
- ・東日本大震災からの支援活動経験を生かし2017年に設立
- ・事業:林業 x 福祉 連携の薪製造販売 etc.





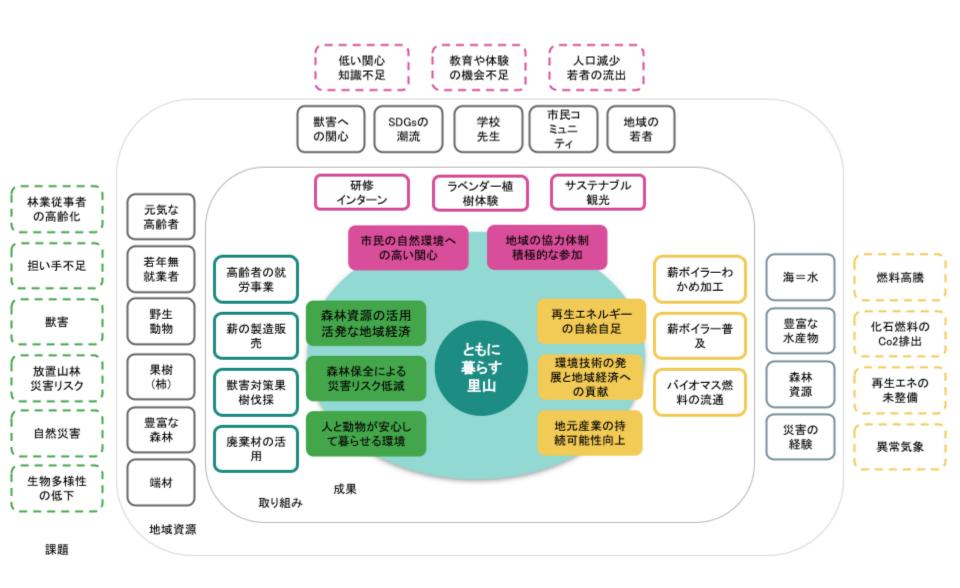
- 地域:岩手県釜石市「鉄と魚とラグビーのまち」
- ・人口3.2万人 (63'9万人から減少傾向)
- ・リアス海岸と緑豊かな山に囲まれる





画像引用:左下2つ 縁とらんす、地図 コトバンク

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定	◆ キッ?	カオフ				◆ 中	間共有会			♦SH-N	ИTG ♠	。 战果報告会 -
林福連携:薪 コンソーシア ム (MCo)		◆森林機構 見交換 ◆大手生活 情報交換				◆木質資源 流小規模オ ワークの刑	トット	びと祭り ◆提携企業 の訪問	◆講演 @ 仙台	- ◆講演 - @岩手県	雫石町	
ラベンダー コンソーシア ム(LCo)	◆農林水産 の方針確認		◆ラベンダ (秋田美郷		◆地場の企 の提携	業と		◆岩手大学 山内准教授 ◆農林水産 打ち合わせ	と面会 課と ◆放置			
バイオマス熱 源利用コンソ ー シ ア ム (BCo)			◆漁協組合 ヒアリン	グ	◆富士大学 遠藤教授! と薪ボイラー	二取材 ()	ネルギーサ 滋賀) に参加		•	- ◆漁協組合 意見交換		- 薪ボイラー - 実証実験 - (予定)

今年度チャレンジした主な取組内容

果 出張先や講演で共感の声 ゃ が多数!認知度向上! 気 事業展開へ大きな一歩! づ

> 林福連携:薪 コンソーシアム (略記号MCo)



成

き

目指す地域像

環境と福祉が相互に 関係し経済的価値を 生み出す豊かな地域 社会(広義いわて)



少子高齢化による高齢者の 居場所や生活困窮が引き起 こす孤立、孤独、手入れが 行き届かない森林の問題



観光資源を発見!

ラベンダー コンソーシアム (略記号LCo)



目指す地域像

すべての生き物のあ るべき生活を考え、 支え、共存・共生・ 共栄する社会



生活エリアを超えた害獣・ 鳥獣などの被害、またそれ に対処する社会的コストの 感 増加



・薪ボイラー開発!







目指す地域像

地域にある宝を見つ めなおし、つなぎ直 す視点と実行力をも つ能動的な社会







政治リスクやパンデミック よる化石燃料高騰になどの 諸課題に対しオルタナティ ブな対抗策がない

















今年度チャレンジした主な取組みと成果

地域の自然環境を学び、解決アイデアを考えるワークショップ開催@釜石



10代の学生から50代の専門家まで幅広い参加者が活発に意見を交わしました!

今年度チャレンジした主な取組みと成果

ワークショップの成果物



多様な解決アイデアは新たな事業のタネに!!

取り組みの成果・新たに見えた課題

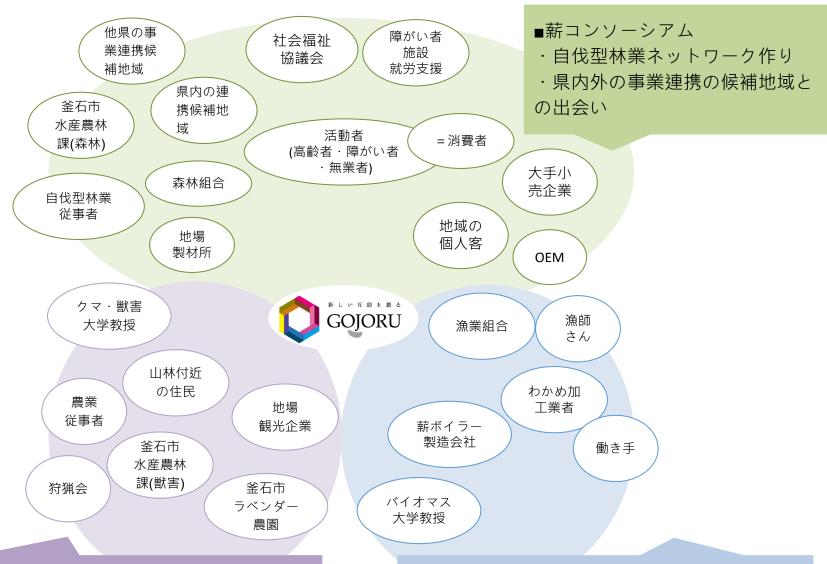
学生さんのワークショップとゴジョる見学の記録 (掲載許可あり)



追手門学院大学 杉山さん 作成

「そもそも人口減少って何に困るの?」など学生ならではの 素朴な疑問や気づきは、私たち大人には無い視点でした!

現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化



- ■獣害対策&観光資源コンソーシアム
- ・行政と先進地域へ訪問、政策の関連性強化
- ・獣害対策と観光資源をつなぐカギを発見

■バイオマスコンソーシアム

- ・各団体の協力体制により役割分担が明確化
- ・有識者を訪問、アドバイザリー承諾を得た

取り組みの成果・新たに見えた課題

1. 仲間や共感者を増やすことができた

活動地域を飛び出し、先進地域や同業者 や専門家など幅広い方々とのネットワー クができ、共感の声を多くいただいた。

2. 目指す地域像・地域マンダラの完成

地域の課題・資源・解決策を繋げて考えることで、理想像の解像度が上がった。

3. PF構築に必要な仮説検証ができた

様々な方からお話を聞き、PF事業構想を 伝えることで、当初の仮説を検証するこ とができた。



- ●難しかったこと
- ・幅広い方に参加いただくための ワークショップの広報活動
- ・環境や獣害の課題と対策を自分事 として考えてもらう仕掛け





- ●新たに見えた課題
- ·若い世代など、もっと多様な人の 声に耳を傾けることが必要だった
- ・活動範囲が広がりリソース 不足に.. 業務の効率化と人手獲得が必要。



活動における今後の展望

1. もっと多様な人・もっと多様な関わり方

PFは、幅広い年代・職業の人々が様々な方法で関わってもらい、それぞれが活躍できる受け皿となることが大切だと強く思いました。今後は地域の未来を作る世代にもアプローチしたい。

2. 事業展開の胎動

今年度、活動を通じて得た繋がりや知見などの"地域の宝"を再評価・利活用できる環境を構築していく。そして、エスカレーションしたい。

3.30by30など脱炭素の取り組みを強化

CO2排出量を削減するためのスキーム構築や削減効果を推算をするなど脱炭素の取り組みと成果の見える化に注力したい。